



# YUME いっぱい

優しい心・優しい言葉・優しい仲間

佐世保市立吉井北小学校

学校通信 28号

R03.12.24 (金)

文責 校長 堤 祐子



## 良い年をお迎えください



2021年もまもなく終わろうとしています。子供たちは明日25日から来月10日まで17日間の長い冬休みに入ります。今年もコロナに振り回された年ではありましたが、その中で修学旅行や宿泊学習、学習発表会といったいろんな学校行事も工夫しながら行うことができました。そして子供たちの中に感染者を出さなかったことは何よりでした。来年こそこの感染症がおさまって、当たり前毎日が戻ってくれたらと強く思います。

不安な子供たちを、ご家庭で、地域で本当によく支えていただきました。心より感謝いたします。皆さま、どうぞ良いお年をお迎えください。

## 学力テストにチャレンジ！

12月13日～17日の1週間は、全校学力テスト週間でした。今回は1年生もチャレンジしました。

教科は国語と算数です。いつもの1枚裏表だけの単元テストとは違い何ページもある冊子になった問題、解答用紙が別といったスタイルです。問題も単純なものは少なく、よく読み取らないと理解や解決できないものが多く、集中力を必要とします。集中力がないと、解けるのにあきらめてしまう子どももいます。もったいないことです。

子供たちの中には目標をもって自主学習でテスト勉強に取り組んだ子もいましたが、さて結果はどうだったでしょう。4月のころと比べて手ごたえを感じてくれると嬉しいですね。



## 事故や事件にあうことがないように、安全で楽しい冬休みに

年末・年始はとくに交通事故が起こりやすいそうです。人や車が多くなるからでしょう。子供たちには、休み中事故にあったり、事件に巻き込まれたりすることがないように、十分注意をするように指導をしています。また、寒くなったこともあり、生活も乱れがちです。1月11日からまたスムーズに学校生活に適應できるよう、ご家庭でもご配慮、ご指導をよろしくお願いいたします。

病気やケガ、事故など何か気になることがありましたら、ご連絡いただきますようお願いいたします。

教頭携帯 090-9729-9265

校長メールアドレス yuko223@docomo.ne.jp



## お世話になりました

もみじ学級担任として頑張っていた佐々木幸三（ゆきみ）先生が12月27日をもって任期を終え、学校を去ることになりました。



佐々木先生は学級の子供たちに心からの愛情を注ぎ、努力を厭わない頑張り屋でした。なかでも、お得意のイラスト制作を生かした掲示物は季節ごとに学級を彩り、子供たちは楽しい気分で毎日を送ることができました。また、図書委員会担当として様々なイベントを企画し、実行された実力の持ち主です。読み聞かせに合わせてお話の挿絵も描いていただきました。佐々木先生が本校に残された足跡は、とても大きなものだと感じています。

1月からは育休でお休みをいただいております清水由依（ゆい）先生が戻られます。

読み聞かせでよく紹介していただいている「吉井のむかしばなし」より一編紹介します。私たちの吉井に伝承されるお話です。ぜひ楽しんで次代につなげてください。

### 1月の行事予定

- 1日（土） 元旦 ～3日 年始の休日
- 4日（火） ～7日（金） 学校開庁
- 10日（月） ㊦成人の日
- 11日（火） 後期後半開始 全校5校時授業
- 12日（水） 身体測定（高）
- 13日（木） 身体測定（低）  
新しい学校推進説明会
- 17日（月） 読み聞かせ
- 18日（火） チャレンジT ALT
- 19日（水） 食育の日 徳育の日
- 24日（月） 読み聞かせ
- 25日（火） チャレンジT ALT はまゆう号
- 26日（水） クラブ活動 俳句の日  
中学校入学説明会（6年）

## 吉井昔ばなし「鏡」(旧吉井町教育委員会発行)

いなかでは鏡など便利なものを誰も知らなかった頃の話です。

福井村に和助とおはまという若夫婦と、和助の父喜平の3人で仲良くくらしていました。ところがある日のこと、喜平は急病で死んでしまいました。親孝行ものの和助は、父の死が悲しくて毎日涙に泣いていました。

そのうちに、和助はいっそ気ばらしにと長崎まで出かけました。

長崎の町をぶらぶらと歩いていた和助は、ある店先でピカッと光っているものに気が付き、ふしぎにおもってのぞいてみると、少し若い父の喜平に似た顔が見えました。

「死んだ父親はこんなところにいたのか……」和助はなけなしの銭をはたいてそれを買い求めて帰りました。そして大事に長持（ながもち；衣装ケースのようなものいれ）の中にしまい込み、暇があればこっそり取り出しては父の顔を見て懐かしんでいました。そんな和助の様子をふしぎに思った妻のおはまは、和助の留守を見計らって長持を開けてのぞきました。



ピカッと光るものの中に、若い女の顔が見えるではありませんか。「ん、まあ、なんと、こんなところにきれいなおなごをかくしておいてっ。」おはまは腹を立てて、それをつかむと放り投げてしまいました。それは音を立ててこわれてしまいました。

外から帰った和助は、長持を開けて、いつもの父の顔が見えないので、あちらこちらをひっくり返してさがしますが、どうにも見つかりません。この様子をじっと見ていたおはまはおこった顔で言いました。

「わたしにだまって、あんな所におなごをかくしていたから、放り投げましたよっ。」「何ということをしてくれたんだっ。わしの父が入っていたのにっ。」「うそばかりー。きれいなおなごでしたっ。」「ちがうー。わしの父じゃー。」ふたりはつかみあいのけんかとなりました。

そこへ、おりよく村一番のものしりじいさんが通りかかりました。事情をきいたじいさんが言いました。

「それは鏡というて、それを見る人の顔がうつる新しい道具じゃよ。」「……………」ふたりは顔を見合わせてめをばちくりとさせました。

